

「 土砂災害について 」

岐阜県 岐阜市立加納西小学校 6年 <sup>しばの</sup>芝野 <sup>こうだい</sup>航大

僕の祖父母のお墓は鹿児島県鹿児島市にあります。そして、今は誰も住んでいない家もそのまま残っています。鹿児島へ家族で里帰りした回数は今まで6回くらいあります。だから、8月8日に九州地方を中心に線状降水帯が発生したニュースが気になりました。

鹿児島市は今までも大雨警報がよく出ていて、テレビのニュースで何度も取り上げられているのを見ました。インターネットや新聞で調べてみると、鹿児島県は多量の雨が降り、地震、火山噴火などが原因で土砂災害が全国でも多い地域の一つです。

雨が降り出した2日後の8月10日には、始良市で土砂災害が発生し、土砂が流入して住宅が崩かいし、住人の女性が亡くなりました。となりに住む人は、「雨とかみなりがすごかった。がけくずれなんて今まで起きたこともなかったよ。これからは、今までの備えでは通用しないと感じた。」と話をしていました。

土砂災害は、土石流・がけ崩れ・地すべりの3種類に分けられます。今回の事故は「土石流」で山や谷の土砂や岩石が大雨による大量の水と混ざり合っ一気に下流へ押し流される現象です。その速さは、時速20kmから40kmに達することがあり家や畑などを飲み込むほどの破かい力があります。時速20kmというと、大人が自転車をこいで走っていて「けっこうとばしていてあぶないな」と思うほどの速さです。そんな速さで土砂が山から流れてきたらあまりにもすぐの出来事に逃げる時間もないだろうし、気づいたときには土砂にうまっていると思うからとても怖いと思いました。ぼくは海水浴に行った時によく砂山を作ります。その時の砂は水を含んでいるからけっこう重たいです。そんな砂の中にうまってしまったら体が動かせないと思います。

毎年全国で大雨警報が出て、川の水が増水し洪水が起きたり、土砂災害が起きています。両親はよくニュースをみながら、「自分たちの子どもころは今みたいに暑くなかったし、集中的に警報級の大雨が降るようなこともなかった。」と言っていました。ぼくは両親の子どもころとは違ってこれからこんな天気が続いていくと思います。だから、自分の身の安全を一番に考える必要があると思います。

学校の社会の授業でも勉強したけれど、まずは自分の住んでいる場所が土砂災害警戒区域かを確認しひなんの時にはどこにどのように逃げるのかを知っておくことが大事です。次に土砂災害警戒情報や雨量の情報に注意します。テレビでも速報が流れたり、けい帯電話で知らせてくれます。そして早めのひ難が大事です。始良市の住人が話をしていたように、今までの備えでは通用しなくなっていると思うので暗くなる前に早めのひなんをすることが必要です。ひなんが困難な時は建物の2階以上の場所、がけからはなれた部屋に移動します。

滋賀県に住む祖父母の家の裏にはがけがあるので、大雨警報が続くと土砂災害の危険がある場所です。今回調べたことを祖父母にも教えて日ごろから災害への備えの重要性を伝えたいと思います。